



県内主要産業の動向

2018年3・4月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	18年2月	18年3月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は総じて低調に推移。年末から続いた「ふるさと納税」の返礼品需要には一服感が出てきた。また、百貨店やホテル向けも依然として動きは鈍い。一方、ノベルティ向けには大口受注がみられた。そうした中、原材料費等の上昇を受けて、製品の値上げに踏み切る先もある。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は総じて前年並みを確保。業務用は、食品工場向けにステンレス製の調理器具などの需要がみられるものの、飲食店向けは低調。家庭用は、安価な輸入品に押されて動きが鈍い。そうした中、燕三条の地域ブランドとして海外の富裕層を対象に販路開拓を図る動きもみられる。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、春の需要期に入り生産、販売共に例年通り増加。建築関連工具、各製造工場でのトルクレンチ需要などは堅調を維持。輸出は、各業者出荷状況に差はあるものの一服感。そうした中、生産面では人手不足、採算面では鋼材価格上昇など複数課題を抱える業者もみられる。
電子部品 ・デバイス	○	○	→	受注は総じて好調。半導体関連では、半導体素材の受注が堅調。電子部品関連では、半導体製造装置向けは好調であるが、スマホの販売不振を受けて、携帯端末向けでやや弱含みの動きが出ている。先行きは、米中貿易摩擦の影響も含め、見通しを慎重にみる向きが増えている。
鋳物	○	○	→	受注は高水準を維持。IT関連、自動車関連、建設関連を中心に活況を呈しており、今後のさらなる需要拡大を見込み、生産設備の増強を図る企業もある。受注好調の一方で、山積する鋳型の保管場所の問題や人手不足による受注見合わせなど、新たな課題も出てきている。
金型	○	○	→	受注は堅調。首都圏向けビル建材や自動車向けが、引き続き高水準で推移している。一方で、原材料の高騰、人手不足などの課題も依然として残る。そうした中、県央地区では、大手自動車メーカーのモデルチェンジに伴う需要拡大に期待する声が聞かれた。
一般機械	○	○	↗	内需・外需とも自動車部品、半導体製造装置、建設機械など幅広い分野で好調を維持。米中貿易摩擦の影響を懸念する声もあるが、18年度の受注は前年度とほぼ同水準を見込んでおり、好調を維持する見通し。直動案内機器などの主要部品不足は今年度上期中での解消を見込む。



業種	景況			コメント
	18年2月	18年3月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町産地は、受注量が前年割れ。インクジェットでプリントされた着物が増え、低価格化が進む中、苦戦を強いられている。そうした中、4月には恒例の「きものフェスタ」が開催され、各社が独自の技法やデザインをPRし、需要喚起を図る。五泉産地は、主力の白生地生産が前年を若干下回った。
合繊織物	●	●	→	秋物受注期。状況はまだ模様で高級品は引き合いがあるが、主力の定番品は低価格な輸入品に押され苦戦。生産面では、原油高を要因とする合繊相場の上昇が収益を圧迫している。そうした中、栃尾産地では、壁紙や照明、ソファなど新たにインテリアの分野で需要喚起に努めている。
ニット	●	●	→	春物最終生産期。店頭的好調を受け、一部では追加受注もみられた。足下では、県内外各地で秋冬物の展示会が始まり、ブランド化事業等の効果もあり各産地とも手応えを感じている。そうした中、五泉産地では新潟市の専門学校に開講したアパレルニット科に講師派遣などで協力。産地の活性化や後継者育成を目指す。
木工家具	●	●	→	業務用は、飲食店のテーブル関係受注を中心に繁忙感が続いた。足下では、夏場の商戦向け受注に例年より早い動き出しがみられる。一方、家庭用は売上確保に依然苦慮。販売促進のため、組合は例年開催するイベントのリニューアルを検討。地元商工団体も推奨品の県外販売イベントを企画中。
清酒	●	●	→	3月の出荷量は、天候不順で落ち込んだ前月からの回復が期待されたが、県内向け・県外向けとも前年を下回った。業務用が引き続き低調で、これまで底堅かった特定名称酒の出荷も伸び悩んでいる。足下では、出荷が落ち込む夏場を控え、季節商品の開発に取り組む動きがみられる。
米菓	◐	◐	→	3月の売上は前年並みを確保。春の行楽シーズンを前に新商品などが堅調だった。足下は、前年のポテトチップス代替需要の反動減もあり、総じて前年を下回って推移。一部メーカーでは、原料費等の上昇を受けて値上げを開始したものの、影響は軽微にとどまっている模様。
建設	◐	◐	→	公共工事は、弱めの動きが続く。国や市町村で前年の大型工事や補正予算関連工事の反動減がみられる。民間工事は、小規模工事が主体であるが底堅い動き。住宅建設は、持家が弱含みで推移。展示場の客足は回復してきており、各メーカーとも消費税増税を控え、PRに努めている。
大型小売店	◐	◐	→	3月の売上は前年を上回った。新生活用の寝具などのほか、気温上昇により春物衣料が好調だった。足下でも引き続き衣料品は堅調推移。食品は青果価格の下落が売上を下押ししているものの、総じて前年並みを維持。そうした中、一部では店舗改装や催事開催により需要を喚起。